

# 伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



## 和 竿

ます だ とも の じょう  
増田友之丞

(号 二代目竿甚)

(平成2年度作品)

16mm 映画・ビデオ  
カラー・17分

### プロフィール

住所 荒川区西日暮里1-5-16

明治40年(1907)、埼玉県川口市生まれ。

平成元年度 荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

祖父繁次郎氏が継ぎ竿を発案し、広めた。父甚五郎氏(初代 竿甚)がその技術を受け継ぎ、さらに、友之丞氏に受け継がれ、「二代目 竿甚」を名のる。残念ながら、後継者はいない。

布袋竹、矢竹を主材料に、海釣竿、溪流竿、フナ竿など30種ほどの竹竿をこしらえている。「魚を釣った時の手元に伝わる感じ——釣りの醍醐味は、竹に限ります」と語る増田さんは、竹の持つ性質を熟知して、愛好家に喜ばれる竹の釣竿づくり一筋に精励している。

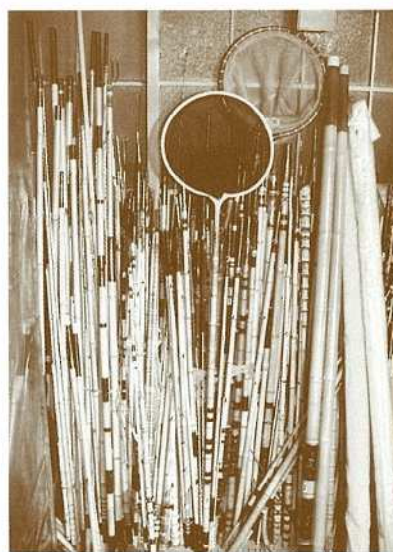
企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

## 用具・工具

竹（布袋竹・矢竹）、ウルシ、絹糸、タメ木、キリ出し小刀、ノコギリ、ヤスリ、ツキノミ、ナタ、七輪（炭火）

## 工程

- (1) 材料の竹の中から竿にする竹を選び出す。この作業は「生地合わせ」といい、竹の組み合わせは竿の生命である。
- (2) 手頃の長さに竹を切る。
- (3) 七輪の炭火で竹（布袋竹）を焙りながら「タメ木」で曲がりを直す。（火入れの温度は長年培ったカンで調節する。）
- (4) 糸巻き。竹の割れをふせぐため、差し込みに絹糸を巻いていく。
- (5) 差し込み箇所にウルシを塗りこむ。
- (6) 差し込みを良くするため、ツキノミで中をえぐって差し込みの加減を決める。
- (7) ウルシがよくのるように紙ヤスリで握りや胴を磨く。
- (8) 竿全体に、手のひらでウルシを塗る。
- (9) 一日、ウルシを乾かして穂先からガイドを付けていく。
- (10) リールシートを取りつける。リールシートを糸で竿に巻きつける。
- (11) 最後に筆でウルシを塗って仕上げる。およそ10日間で仕上がる。



利用される方は……………☎ **3891-4349**

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団供登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。